

事例2 相手に合わせたコミュニケーションを通して、人間関係の形成を目指す事例

- 学年 自閉症・情緒障害特別支援学級 (1年)
- 指導内容及び指導の形態 自立活動
- 事例のポイント
 - ①生徒が無理なく聞き上手を目指せるように、学習環境を工夫する。
 - ②会話の中で、効果的なあいづちやオウム返しができるようにする。
 - ③自分のことを話しながら、人とコミュニケーションをとる楽しさを実感できるようにする。
 - ④ICT端末を活用することで、自身の会話の様子を客観的に見つめ、自己理解を深めることができるようにする。

1 主題名 「ドのつく言葉で、言葉のキャッチボールができるようになろう」

2 主題設定の理由

本学級の生徒は3名（1年男子2名、1年女子1名）で構成されている。礼儀正しく、言葉遣いがいいで挨拶もよくできる生徒や、穏和で誰にでも優しく接することができる生徒、いつも笑顔でユニークな一言をつぶやく生徒など、それぞれが明るく穏やかな雰囲気を作っている。一方、コミュニケーションにおいては、自分のことだけを話し続けてしまったり、人と話することが苦手で会話が「はい」「違います」などの端的なやりとりで終わってしまったり、うなずきで会話を済ませてしまったりなど、それぞれ課題も持っている。また、自分から相手に質問し、会話を作り出すことは特に苦手としており、全員に共通した課題となっている。

そこで本主題では、ドのつく言葉（どうして～？どんな～？どうやって～？など）を使って、「聞く」ことに徹した会話練習を行う。さらに、あいづちやオウム返しを挟んで相手が気持ちよく話ができるようにしていきたい。また、聞かれたことに対してリズムよく自分のことを話す練習も合わせて行いたい。

本主題は、中学校に入学してすぐから学校生活に慣れる前期までの間に集中的に取り組むことで、コミュニケーションの土台作りを行うことを目的としている。また、ペアやグループで学習することで互いを知り、相手に合わせたコミュニケーションが人間関係の形成につながることを意識させたい。そして、日常生活や社会参加に活用できる力を身につけさせたい。

3 生徒の実態

	生徒の実態
A 1年	自分の好きなことや興味のあることについて話をすることが得意である。その分、会話が一方的になることもあり、相手が戸惑うことがある。また、自分の知っている単語を耳にすると、そのことについて唐突に話し始め、相手が話している途中でも口をはさんでしまうことがある。
B 1年	穏和で優しい性格である。相手からの問いかけに対してうなずきや返事をするなどのリアクションをとることができる。会話をつなげたり、自分から質問したり話しかけたりすることが苦手である。会話の際、どんなことを話せばいいのかかわからず、人と関わることに消極的になってしまっている。
C 1年	いつも笑顔で、人の会話を楽しそうに聞いていることが多い。興味のある話題には、ユニークな一言をつぶやくこともある。一方、自分が会話の中心になって話すことは苦手で、自分の考えや思いを伝えることには消極的である。相手からの問いかけには単語で返答するか、主にうなずいたり首を振ったりしてコミュニケーションをとっている。

4 目標

- (1) あいづちを打ちながら、相手の言葉に合わせた会話を続けることができる。
 〈6 コミュニケーション (5)状況に応じたコミュニケーション〉
- (2) 聞かれたことに対して、自分の言葉で答えることができる。
 〈6 コミュニケーション (2)言語の受容と表出〉
- (3) 自分を客観的に見ることによって自己理解を深めつつ、学んだスキルを日常生活に生かそうとする意欲を育てる。
 〈3 人間関係の形成 (3)自己の理解と行動の調整〉

5 指導計画 (40時間扱い)

	授業目標	授業時数
1	「あいづち」と「ドのつく言葉」のカードを使って、会話を続けることができる。	10
②	「オウム返し」と「その他の質問」のカードを加えて、会話を続けることができる。	10 (本時 5/10)
3	相手が気持ちよく話ができるように、笑顔、アイコンタクト、声のボリュームを意識して、カード無しで会話を続けることができる。	10
4	質問と回答を交互に行い、会話を続けることができる。	10

特支編成要領 P 25～ 指導計画作成上の留意事項(1)(7)(8)(9)(15)

6 本時の構成 (15/40)

(1) 本時の目標

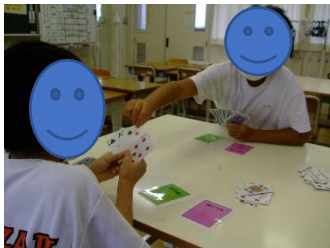
①共通目標

- 「あいづち」「ドのつく言葉」「オウム返し」「その他の質問」のカードを使って、会話を続けることができる。

②個人目標

A 1年	質問者のとき、あいづちを打ちながら、相手の言葉に合わせた会話を続けることができる。 〈6 コミュニケーション (5)状況に応じたコミュニケーション〉
B 1年	やりとりを続けることで自信を持ってコミュニケーションをとることができる。 〈3 人間関係の形成 (3)自己の理解と行動の調整〉
C 1年	回答者のとき、自分の考えや思いを、言葉にして伝えることができる。 〈6 コミュニケーション (2)言語の受容と表出〉

(2) 展開

配時	学習活動	指導上の留意点 (※指導の手立て *評価の観点) ○生徒の活動 ◎予想される生徒の反応 □指導者の主な指示、発問	備考
10分	1 質問ババ抜きをする。	<p>○始業の挨拶をする。 □質問ババ抜きをします。 ○質問ババ抜きとは、カードを引かれる人が自由に質問をして、カードを引く人がその質問に答えるゲームです。 □質問に答えてもらったら、あいづちかオウム返して言葉を返してみましょう。</p> <p>事例のポイント① 相手の話を聞けるようになるために、まずはゲームを通して、相手に質問することや会話のやりとり慣れる。</p>  <p>※質問ババ抜きの自由な質問のやり取りの中から、次の活動で活用できそうな「今日の質問」をメモしておく。 ※活動に慣れてきたら、笑顔、アイコンタクト、声のボリュームも意識できるように声掛けをする。</p>	トランプ タイマー コミュニケーションカードのうち、「あいづち」「オウム返し」のカード *次項参照
10分	2 ドのつく言葉練習1をする。	<p>□次は、ドのつく言葉の練習をします。 ○質問ババ抜きで出てきた質問から、会話のスタートとなる「今日の質問」を1つ選ぶ。 ※質問選びが難しい場合は、教師がメモした質問の中からアドバイスする。</p> <p>□コミュニケーションカードを使って、1分間会話を続けてみましょう。 ・質問者と回答者と記録者に分かれる。 ・質問者は「今日の質問」から会話を切り出し、相手の回答に合わせて、カードを示しながら1分間会話を続ける。</p> <p>事例のポイント② 相手の回答に対して、必ずあいづちかオウム返しを挟んでから質問するようにする。そうすることで、相手に共感していることを伝えることができる。</p>	コミュニケーションカード

※コミュニケーションカードを使い、安心して活動できるようにさせる。

<コミュニケーションカード>

あいづち		「へえ～」 「なるほど」など
ドのつく言葉		「どうして」 「どんな」など
オウム返し		「○○って、いい よね」など
その他の質問		「他には？」など

- ・回答者は、聞かれたことに答える。

事例のポイント③

自分の話を相手がしっかり聞いてくれる安心感を持ちながら、コミュニケーションをとることの楽しさを実感できるようにする。

- ・記録者は会話の様子を動画で撮影しながら、2人の会話を聞く。



- ローテーションして、同じことを続ける。

◎A…回答者のとき、全てを一気に説明しようとする。

※会話のキャッチボールになるように、聞かれたことだけを答えるように促す。

◎B…どの活動でも、緊張と不安な気持ちから、声が小さくなる。

※会話の中で、実践できているよいところを認め励ます。

◎C…回答者のとき、単語で答えようとする。

※自分の考えや思いを文章で答えるよう促す。

PC
タイマー

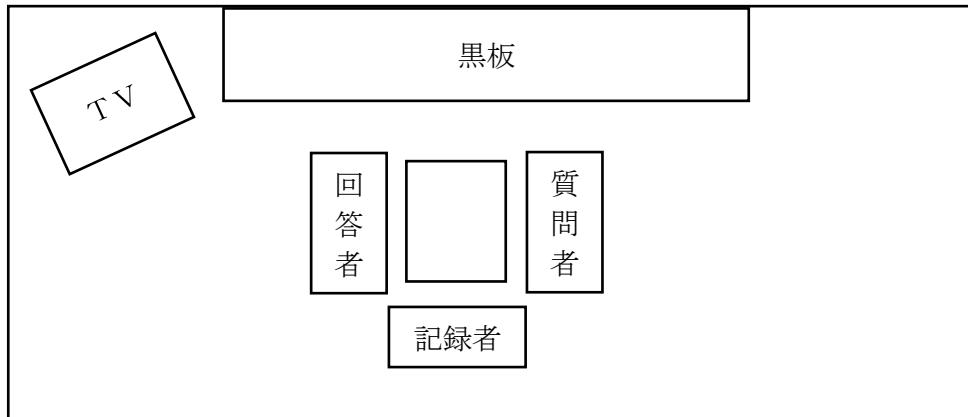
15分	3 動画で練習1の振り返りをする	<p>□今の会話の様子を振り返ります。 ○録画した動画を全員で見る。よかったところや改善した方がよいところ、他にどのような言葉を使うことができたかなどを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>事例のポイント④ 撮影した動画を振り返ることによって、振る舞いの改善を図ることができる。また、気付いたことを共有したり、他者からの評価を受けたりすることで、コミュニケーションをとることへの自信につながる。</p> </div> <p>※生徒の言葉を引き出し、肯定的に受け止めながら振り返りを行う。 ※必要に応じて、改善方法を話し合わせる。 ※次の練習2で気をつけるポイントを明確にする。</p>	TV
10分	4 下のつく言葉練習2をする。	<p>□振り返ったことをやってみましょう。 ○動画で振り返ったことを、再度実践する。 (時間に余裕があれば、練習2も動画を撮影し、振り返ることも可。)</p> <p>*A…質問者のとき、あいづちを打ちながら、相手の言葉に合わせた会話を続けることができたか。 *B…やりとりを続けることで、自信を持ってコミュニケーションをとることができたか。 *C…回答者のとき、聞かれたことに対して単語やうなずきで返すのではなく、文章で答えることができたか。</p> <p>※よくできているところを、授業者が言葉にして伝えていく。</p>	コミュニケーションカード タイマー
5分	5 本時の活動を振り返る。	<p>□今日の活動を記録しましょう。 ○本時の活動を記録し、振り返る。 ※活動の様子を肯定的に振り返ることができるように声掛けをする。 ○終業の挨拶をする。</p>	記録用紙

7 本時の評価

A	質問者のとき、あいづちを打ちながら、相手の言葉に合わせた会話を続けることができたか。
B	会話を続けることで、自信を持ってコミュニケーションをとることができたか。
C	回答者のとき、自分の考えや思いを言葉にして伝えることができたか。

8 備考

- ・教室環境図



- ・コミュニケーションカード

